

藝園草牧

第八卷・第九号

昭和二十八年五月十五日(第三種郵便)
昭和二十五年九月一日(每月一回)

夕張郡長沼町字幌内一〇六六
雪印種苗株式会社
中央研究農場



雪印種苗株式会社

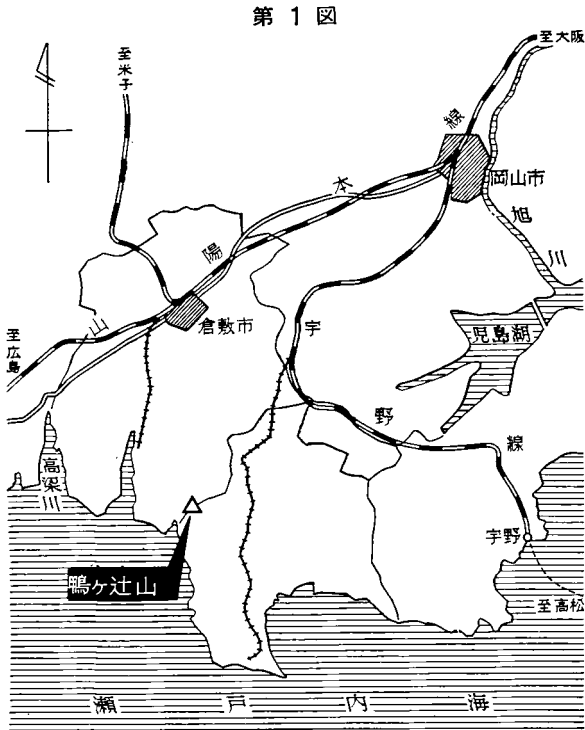
暑熱、乾燥の山地はかくして緑化された

瀬戸内の人工草地

岡山県飼料作物専門技術員
栗山光春

瀬戸内地帯は人も知る寡雨地帯。年間雨量は一、一五〇ミ。殊に盛夏八月は僅か五九ミに過ぎない。昔から塩田地帯として知られている位である。昭和三十三年十一月、県畜産課を通じて地元倉敷市水島酪農協同組合より、高度集約牧野を造成するに

あたつて、今から播種してよいかとの問合せがあつた。十一月某日、県酪農試験場三秋技師と共に現地へ赴いたのである。現地は第一図にみる如く、倉敷市の南方約九キ、瀬戸内海の海岸に沿つた標高二七〇の鴨ヶ辻山である。平坦地はなく、蛤



第 1 図

状の傾斜五乃至二〇度の起伏の多い、小松や雑灌木が密生していた処を開墾中で、高処に立つた眺めはまた何にたとえようもなく、眼下に瀬戸の島々

を見下ろし、遠く四国の山々、多度津の町並も見えろし、誠に眺望絶佳の地であるのに驚いた。

ここで、水島酪農について簡単に紹介しておこう。組合設立は昭和二十六年。現在組合員数三〇〇名。乳牛頭数約六〇〇頭。他に組合の乳牛一六頭を所有し、倉敷市福田には牛乳処理工場をもつて、一日約三〇石の牛乳を処理し、全量市乳として倉敷市、岡山市に販売していた。この地帯は水田が多く、一部畑地帯もあるが、いわゆる水田酪農であり、その飼

牧草と園芸 九月号 目次

◆表紙写真 乾牧草の収納作業(雪印種苗上野幌育種場)	栗山光春…二
◆瀬戸内の人工草地	栗山光春…二
◆温暖地における養畜農家の夏作飼料作物栽培(二)	水島隆…五
◆アメリカの草地みである記 その(三)	上家富成…八
◆果樹苗木の植え方	伊藤幸太郎…一四
◆果樹苗木特性並価格一覧表	…一六
◆季節の作業 果樹、蔬菜	…一六

料自給態勢は多くを水田うら作に頼らざるを得なく、従つて飼料自給度も低く、市乳のおかげで、当時の乳価は一升四八円の稍高値ではあつても、なお酪農経営は苦しいものであつた。現組合長定金正昭氏は本年四一歳の極めて企業力に富んだ、実行力のある人であり、現状の酪農経営の苦境を如何にして打開すべきかに日夜苦慮されていたのであるが、矢張り、処理工場をもち、零細な資金で僅かな利潤をあげるよりも、各組合員個々の酪農経営を確固たるものにするのが緊要であることに思いを致し、そのためには、矢張り「草」であるとの結論を得て、組合員を熱心に説き廻り、処理工場を昭和三十五年三月正式に雪印乳業に譲渡し、その際の牧野改良奨励金等を基金として、前記の鴨ヶ辻山の草地化

に取り組んだのである。誠に背水の陣であつた。隣村郷内村村有地である約五〇畝の山林の利用権を得、県畜産課の協力を得て、高度集約牧野造成に着手したのが昭和三十三年六月である。

それ以来、組合長自ら先頭に立ち、先ず延長三ギの牧道を開き、機械開墾不可能の地約五畝に組合員と共に鍬を振り、炎天下のもと、開墾を進めたが、予定通りの作業も進歩せず、第一年度計画予定の二〇畝を開墾し終つたのが、十一月に入つてからである。

あつた。

われわれが招請されたのがこの頃であつて、現地をみての感じでは、次の事項が懸念されたのである。

- 1 現状では秋播は不可能で春播にせざるを得ない。
- 2 従つて、夏季寡雨地帯ではあり、春播をして牧草地化されても、果して越冬することが可能であるか。
- 3 施肥量を如何にすべきか。要求どおりの施肥をして貰えるかどうか。

- 4 また混播草種を如何にすべきか。
- 5 灌水施設が可能であるか。
- 6 造成後の維持管理がうまくいくかどうか。
- 7 その後の利用法を如何にすべきか。

先ず第一については、既に十一月に入つており、牧草の播種期としては、如何に温暖地帯であつても、標高二五〇呎もあり、冬季間の寒風も考えられるので、小面積ならいざ知らず、二〇畝の面積ともなれば失敗した時の再播種費の莫大なることに不安を感じて、出来得れば米春一〜二作の前駆作物を導入後、改めて秋播とすべきことを提案したが、これも事業年度内に造成完了の必要ありとのことで、止むなく春播に同意した。このようなことは、高度集約造成事業には極めてその例が多く、われわれとしては春播をさけ秋播を指導しているが、開墾作業の進歩が予定どおりにならず、みすみす秋播適地を見送らねばならぬことが数多くあるものである。

従つて第二の項の越夏が心配されるわけで、殊に地味瘠薄であるだけに、その成功率が極めて不安になる。秋播された場合でさえも、夏季かんがいが要望されるのであるから、第五の項が重視されねばならない。幸いかん水施設については、予定地内に貯水池があり、是非ともこの水を利用しなければならぬと計画中であるとのことで一応納得したものの、その実現性にも不安がある処からして、第三の施肥量については特に注意した。(実際には現在の処、まだ

かん水は実施されていない。) 施肥量ならびに施肥法は第一表のとおりである。

正常な方法としては、雑灌木の根掘後、土壌酸度を測定し、必要な中和石灰量を算出して、耕起前に半量、砕土前に残り半量を施用すべきであるが、この場合は耕起



水鳥酪農鴨ヶ辻山の採草、放牧地(ラデノクローバーが主体)
(1960年5月25日写、向つて左雪印種苗前田総務部長、右井口総務部次長)

第1表 施肥量及び施肥法

肥料名	施用量 (10%当)	施用法	施用量 (10%当)
炭素肥	262.5	砕土前全面散布	300
カルシウム肥	13.0		15.0
リン酸肥	33.0	播種前全面散布	37.5
硫酸	9.8		11.25
安石	16.0		18.75
過塩	9.8		11.25

本牧野は国道より中心地まで約三キロあり、その間、組合員の協力のもとにブルドーザーによつて、谷間の中腹に沿つて幅員約三呎の立派な道路が建設されたため、諸資材の搬入は小型トラックによることが出来、誠に理想的である。しかし、厩肥の施用は不可能なため、基肥として土壌の下層

に一〇%当石灰窒素一三%当(提示量一五%当)、熔成燐肥三三%当(同三七・五%当)を炭カルと共に砕土前に全面散布せしめた。砕土後根付け肥として一〇%当硫酸九・八%当(同一一・二五%当)、過燐酸石灰一六%当(同二一・八七五%当)、塩化加里九・八%当(同一一・二五%当)の速効性肥料を施した。以上の基肥中の三成分量は窒素四・八%当(提示量五・五%当)、燐酸八・九%当(同二〇・二%当)、加里五・九%当(同六・七%当)となるが、堆肥は施用していないため、なお肥料不足であつたことは否めない。開墾は全面積の約四分の三(一五%)は

機械により、残り四分の一は傾斜度が強いため階段式带状耕起法を組合員の手によつて行われている。

次に何を混播すべきかであるが、第二表の如き草種と播種量を提示した。

第2表 播種量

草種名	播種量(同指示量)	
	kg	kg
オーチャードグラス	0.6	1.3
トルオートグラス	0.6	0.7
メドウフェスキュー	0.4	0.5
イタリアンライグラス	0.4	0.7
レッドクローバー	0.4	0.7
ラデノクローバー	0.2	0.3
アルファアルファ	0.2	0.3
ブルーアルファ	0.2	0.3

禾本科四種、荳科四種といかにも多くの草種をとつたが、利用形態がまだ確定してはいたわけではなく、また早魃と肥料不足も懸念されたので、放牧用、採草用の両方をねらい、また耐肥性、耐旱性のものをも考慮に入れた結果がこのようなつた。

播種は昭和三十四年三月二十三日より四月五日にかけて行われ、作業は定石どおり、勿論クローバー、アルファアルファ別の根瘤菌接種も行われ、沈圧作業も行われている。

このため発芽は大部分順調であつたが、極く一部の不良地に不毛地は生じているが、大体は成功したとみてよい。

生産第一年目である播種当年は、炭カルの施用量が不足したためか、あるいは施肥量が不足したためと思われるが、牧草の伸

